

提供日 2011/04/26
 タイトル 浜岡原子力発電所周辺の環境放射能調査結果（速報）
 担当 危機管理部 原子力安全対策課
 連絡先 原子力安全対策課
 TEL 054-221-2729



1 要旨

「浜岡原子力発電所の安全確保等に関する協定」に基づき実施している浜岡原子力発電所周辺の環境放射能調査において、過去の変動幅を上回る放射能等を測定しましたが、健康への影響を心配するレベルではありません。原因は、福島第一原子力発電所から放出された放射性物質の影響と推定しました。

あじ及び原乳については、飲食物摂取制限に関する指標（暫定規制値）を大幅に下回っています。また、公衆の年間被ばく線量限度1mSv/年も大幅に下回っており、健康への影響を心配するレベルではありません。

2 過去の変動幅を超えた測定結果等

(1) 測定結果

以下について、過去の変動幅を上回る測定結果となりました。

1. 集塵中全アルファ全ベータ放射能比 (β/α) 【測定期間：3月11日～4月23日】

最大値：16.7【3月22日】(ND～9.2)

(人工放射性物質の有無が判定でき、人工放射性物質が増加すると全 β 放射能も増加し、 β/α の値が大きくなります。)

2. 集塵終了6時間後の全ベータ放射能濃度【測定期間：3月11日～4月23日】

最大値：5.6Bq/m³【3月22日】(ND～0.4Bq/m³)

3. 降下物【採取期間：3月1日～31日】

セシウム134 最大値：617Bq/m²(ND)

セシウム137 最大値：611Bq/m²(ND～0.12Bq/m²)

ヨウ素131 最大値：845Bq/m²(ND)

4. 浮遊塵【採取期間：3月1日～31日】

セシウム134 最大値：7.11mBq/m³(ND)

セシウム137 最大値：8.21mBq/m³(ND～0.012mBq/m³)

5. あじ【発電所周辺海域、4月6日採取】

セシウム134 最大値：0.19Bq/kg生(ND)

セシウム137 最大値：0.39Bq/kg生(ND～0.30Bq/kg生)

ヨウ素131 最大値：0.21Bq/kg生(ND)

6. 原乳【御前崎市内、4月18日採取】

セシウム134 最大値：0.44Bq/kg生(ND)

セシウム137 最大値：0.58Bq/kg生(ND～0.55Bq/kg生)

ヨウ素131 最大値：0.11Bq/kg生(ND)

「ND」は検出されなかったこと（検出限界未満）を示す。

()内は過去の変動幅を示す。

(2) 原因調査

県環境放射能測定技術会が定める「環境放射能調査結果の評価方法」に基づき、原因調査を行った結果、福島第一原子力発電所から放出された放射性物質の影響と推定しました。

(3) 健康への影響

1. 飲食物摂取制限に関する指標（暫定規制値）との比較

暫定規制値と比べ、あじでは、放射性ヨウ素は約9500分の1、放射性セシウムは約870分の1、原乳では、放射性ヨウ素は約2700分の1、放射性セシウムは約196分の1であり、暫定規制値を大幅に下回っています。

2. 公衆の年間被ばく線量限度との比較

浮遊塵、あじ及び原乳から検出された放射性物質による年間被ばく線量の評価結果は、浮遊塵0.00375mSv/年、あじ0.000784mSv/年、原乳0.00129mSv/年であり、公衆の年間被ばく線量限度1mSv/年に比べ、十分に低く、健康への影響を心配するレベルではありません。

3 今後の対応

- ・上記調査結果については、県環境放射能測定技術会において、学識経験者の構成員による詳細な評価を受けます。
- ・技術会の評価結果については、県原子力発電所環境安全協議会に報告します。

(参考)

飲食物摂取制限に関する指標（暫定規制値）抜粋

放射性ヨウ素 飲料水、牛乳※、乳製品※ 300Bq/kg

野菜類（根菜、芋類を除く）、肉・卵・魚・その他 2,000Bq/kg

放射性セシウム 飲料水、牛乳、乳製品 200Bq/kg

野菜類、穀類、肉・卵・魚・その他 500Bq/kg

※100Bq/kgを超えるものは、乳児用調製粉乳及び直接飲用に供する乳に使用しないよう指導すること

提供日 2011/05/11

タイトル 浜岡原子力発電所周辺等の環境放射能調査結果（速報）

担当 危機管理部 原子力安全対策課

連絡先 危機管理部原子力安全対策課

経済産業部茶業農産課

TEL 054-221-2729

054-221-2313



Shizuoka Prefecture

1 要旨

「浜岡原子力発電所の安全確保等に関する協定」に基づき実施している浜岡原子力発電所周辺の環境放射能調査において、過去の変動幅を上回る放射能等を測定しましたが、健康への影響を心配するレベルではありません。

原因は、福島第一原子力発電所から放出された放射性物質の影響と推定しました。

しらす、たまねぎ、茶葉及び飲用茶については、飲食物摂取制限に関する指標（暫定規制値）を下回っています。また、公衆の年間被ばく線量限度1mSv/年も大幅に下回っており、健康への影響を心配するレベルではありません。

なお、原乳については、過去の変動幅の範囲内でした。

2 測定結果等

(1) 測定結果

1. 浮遊塵【採取期間：4月1日～5月1日】

セシウム134 最大値：4.76mBq/m³ (ND)

セシウム137 最大値：4.37mBq/m³ (ND～0.012mBq/m³)

ヨウ素131 ND (ND)

2. しらす【発電所周辺海域、4月25日採取】

セシウム134 最大値：0.21Bq/kg生 (ND)

セシウム137 最大値：0.21Bq/kg生 (ND～0.098Bq/kg生)

ヨウ素131 ND (ND)

3. たまねぎ【御前崎市内、4月28日採取】

セシウム134 最大値：0.030Bq/kg生 (ND)

セシウム137 最大値：0.037Bq/kg生 (ND～0.025Bq/kg生)

ヨウ素131 最大値：0.023Bq/kg生 (ND)

4. 茶葉【御前崎市内、5月2日採取】

セシウム134 最大値：41.3Bq/kg生 (ND)

セシウム137 最大値：41.6Bq/kg生 (ND～0.19Bq/kg生)

ヨウ素131 最大値：1.51Bq/kg生 (ND)

上記の結果を踏まえ追加調査を行いました。

【菊川市内、5月7日採取】

(茶葉)

セシウム134 50.15Bq/kg生

セシウム137 60.85Bq/kg生

ヨウ素131 1.73Bq/kg生

(飲用茶)

セシウム134 2.43Bq/kg

セシウム137 1.89Bq/kg

ヨウ素131 0.02Bq/kg

【磐田市内、5月6日採取】

第63報（5月11日）で公表済み

(飲用茶)

セシウム134 0.62Bq/kg
セシウム137 1.31Bq/kg
ヨウ素131 0.04Bq/kg

第63報(5月11日)で公表済み

※飲用茶:製茶した茶葉10グラムを430mlの湯で90℃、60秒間浸出した。

5. 原乳【掛川市内、4月15日採取】

セシウム134 ND (ND)
セシウム137 最大値: 0.025Bq/kg生 (ND~0.55Bq/kg生)
ヨウ素131 ND (ND)

「ND」は検出されなかったこと(検出限界未満)を示す。

()内は過去の変動幅を示す。

「/kg生」とは、生1kgに換算した値

(2) 原因調査

県環境放射能測定技術会が定める「環境放射能調査結果の評価方法」に基づき、原因調査を行った結果、福島第一原子力発電所から放出された放射性物質の影響と推定しました。

(3) 健康への影響

1. 飲食物摂取制限に関する指標(暫定規制値)との比較

放射性セシウムについては、暫定規制値と比べ、しらすで約1,190分の1、たまねぎで約7,460分の1、茶葉で約4.5分の1、飲用茶で約115分の1、放射性ヨウ素については、たまねぎで約86,900分の1、茶葉で約1,150分の1であり、暫定規制値を下回っています。

2. 公衆の年間被ばく線量限度との比較

浮遊塵、しらす、たまねぎ及び茶葉から検出された放射性物質による年間被ばく線量の評価結果は、浮遊塵0.00215mSv/年、しらす0.000491mSv/年、たまねぎ0.0000477mSv/年、茶葉は0.00647mSv/年であり、公衆の年間被ばく線量限度1mSv/年に比べ、十分に低く、健康への影響を心配するレベルではありません。

3 今後の対応

現在行っている環境試料中の放射能調査について、浜岡原子力発電所周辺などの結果を、定期的に公表していきます。なお、農産物等については、生産の旬の時期があることから、対象品目は変えて、調査を行っていきます。

また、茶については東部、中部地域などで調査を行うとともに、静岡八十八夜新茶キャンペーンで、安全性をPRしていきます。

(参考)

飲食物摂取制限に関する指標(暫定規制値)抜粋

放射性ヨウ素 飲料水、牛乳※、乳製品※ 300Bq/kg
野菜類(根菜、芋類を除く)、魚介類 2,000Bq/kg
放射性セシウム 飲料水、牛乳、乳製品 200Bq/kg
野菜類、穀類、肉・卵・魚・その他 500Bq/kg

*飲用茶はセシウムの「その他」区分中の「調味嗜好飲料」

に該当

提供日 2011/05/19

タイトル 浜岡原子力発電所周辺等の環境放射能調査結果（速報）

担当 危機管理部 原子力安全対策課

連絡先 危機管理部原子力安全対策課
経済産業部農林業局茶業農産課
健康福祉部生活衛生局衛生課

TEL 054-221-2729

054-221-2313

054-221-2429



1 要旨

「浜岡原子力発電所の安全確保等に関する協定」に基づき実施している浜岡原子力発電所周辺の環境放射能調査において、過去の変動幅を上回る放射能等を測定しましたが、健康への影響を心配するレベルではありません。

原因は、福島第一原子力発電所から放出された放射性物質の影響と推定しました。

茶葉及び飲用茶については、飲食物摂取制限に関する指標（暫定規制値）を下回っています。また、公衆の年間被ばく線量限度1mSv/年も下回っており、健康への影響を心配するレベルではありません。

2 測定結果等

(1) 測定結果

1. 茶葉

1) 御前崎市内（5月10日採取）

セシウム134 最大値：37.3 Bq/kg生 (ND)

セシウム137 最大値：40.4 Bq/kg生 (ND～0.080Bq/kg生)

ヨウ素131 最大値：0.61 Bq/kg生 (ND)

2) 牧之原市内（5月6日採取）

セシウム134 最大値：44.6 Bq/kg生 (ND)

セシウム137 最大値：45.5 Bq/kg生 (ND～0.080Bq/kg生)

ヨウ素131 最大値：0.85 Bq/kg生 (ND)

【参考】

文部科学省からの委託により実施した調査

1) 伊豆市内（5月9日採取）

セシウム134 184 Bq/kg生 (ND)

セシウム137 195 Bq/kg生 (0.020～0.076Bq/kg生)

ヨウ素131 2.34 Bq/kg生 (ND)

2) 磐田市内（5月9日採取）

セシウム134 22.3 Bq/kg生 (ND)

セシウム137 23.4 Bq/kg生 (ND)

ヨウ素131 0.37 Bq/kg生 (ND)

県独自の調査

飲用茶（伊豆市内、5月15日採取）

セシウム134 6.6 Bq/kg

セシウム137 7.3 Bq/kg

ヨウ素131 ND

※飲用茶：製茶した茶葉10グラムを430mlの湯で90℃、60秒間浸出した。

2. 降下物（御前崎市内、採取期間：4月1日～5月1日）

セシウム134 最大値：57.4 Bq/m² (ND)

セシウム137 最大値：65.1 Bq/m² (ND~0.12Bq/m²)
ヨウ素131 最大値：19.0 Bq/m² (ND)

「ND」は検出されなかったこと（検出限界未満）を示す。
（ ）内は過去10年間（文科省委託は過去3年）の変動幅を示す。
「/kg生」とは、生1kgに換算した値
御前崎市内の茶葉は、5月11日に公表した2地点とは、採取地点が異なる。

(2) 原因調査

県環境放射能測定技術会が定める「環境放射能調査結果の評価方法」に基づき、原因調査を行った結果、福島第一原子力発電所から放出された放射性物質の影響と推定しました。

(3) 健康への影響

1. 飲食物摂取制限に関する指標（暫定規制値）との比較
茶葉及び飲用茶は、放射性セシウムの暫定規制値を下回っています。
2. 公衆の年間被ばく線量限度との比較
茶葉から検出された放射性物質による年間被ばく線量の評価結果は、0.0221mSv/年であり、公衆の年間被ばく線量限度1mSv/年を下回り、健康への影響を心配するレベルではありません。

3 今後の対応

- ・上記調査結果（国委託を除く。）については、県環境放射能測定技術会において、学識経験者の構成員による詳細な評価を受けます。
- ・技術会の評価結果については、県原子力発電所環境安全協議会に報告します。

(参考)

飲食物摂取制限に関する指標（暫定規制値）抜粋
放射性ヨウ素 飲料水、牛乳、乳製品 300Bq/kg
野菜類（根菜、芋類を除く）、魚介類 2,000Bq/kg
放射性セシウム 飲料水、牛乳、乳製品 200Bq/kg
野菜類、穀類、肉・卵・魚・その他 500Bq/kg